

小野観音堂

三観音三十三観音巡礼の 10 番目の場所で、小野岳山道の入り口近くにあります。観音（観音堂）は 1813 年に建てられましたが、中にある日本の慈悲の菩薩である観音像はかなり古いものです。もともとは小野岳の頂上にありましたが、後に現在の場所に祀られました。堂内は、幸せな結婚や安全な出産など、家族の祝福を祈願するもので、窓には絶妙な彫刻が施されています。年に一度、花が咲く植物(開花植物)に囲まれた静かな森が賑やかな夏祭りの舞台となり、住民が集まって踊りを披露したり、おやつや飲み物、おもちゃを売る小さな屋台を売り出したりしています。

会津三十三観音巡礼

下郷町は福島県西部の会津地方の一部です。しかし、江戸時代（1603～1867）、会津は徳川幕府が統治した領地の名前でした。会津三十三観音巡礼は、慈悲の神である観音像 33 体を結ぶルートです。観音菩薩はすべての生き物の救世主で 33 種類の形に変化するとされており、33 体の観音像を巡る巡礼ルートが全国各地に見られます。ルート沿いの 33 の観音像は、田舎に立っている孤独な石の彫刻から、国宝に指定されている寺院に収められている彫像までさまざまです。番号 10 と 11 は下郷にあります。どちらも小さくて絵のように美しい田舎の寺院にあります。訪問者が何世紀にもわたって行ってきたように、誰もが平和な雰囲気を経験することを歓迎します。

仏教文化の中心

平安時代（794～ 1185 年）から会津で仏教文化が栄え、「仏教の都会津」と名付けられました。地元の領主である保科正之（1611–1672）は、17 世紀半ばに会津三十三観音巡礼を設立したと考えられています。人々は、過去の罪の赦しを求めたり、幸運と健康を祈ったり、会津地方の多様な文化と自然の美しさを体験したりする旅に出ました。この仏教文化と観光のつながりが会津で人気を博し、今日でも人々は巡礼を行っています。